

JAQG報告会 Q & A

1. 全体質疑応答

番号	内容	回答
1	顧客で不具合事象が発生してもJISQ9100審査登録機関は淡々と審査を行うばかりで顧客の困っているQMSに関するフィードバック機能が発揮されていないのではないかと。不適合を起した会社が対策を取るの当然として、9100スキームでは9001スキームにない航空宇宙業界の代表のJAQG(JRMC)が監視の機能を持っているのだから顧客の意見を取り込んで9100認証スキームのJAB又は審査登録機関に反映すべきではないか。	航空宇宙製品の品質向上（流出不具合の削減）は、9100QMS全体に係わるものであり、JRMCの活動のみでなくIAQG活動全体の目標として「改善の戦略」の策定に取り組んでおります。その成果は、順次QMS規格要求に反映する計画です。

2. テーブルディスカッション

1-1. JRMC

番号	内容	回答
1	産業経験審査員資格について、航空宇宙用の電子機器の部品設計などの経験は、産業経験審査員の資格要件を満たすか？	SJAC9010にも記してあるが、設計経験のみでは条件を満たすことになりません。評価は、申請書の内容に基づきSJAC9010に示される要件に関する知識・経験を有しているか、との観点で実施されています。申請書の内容では判断できない場合は、補足資料提出や、場合によりインタビューテストなどが実施されます。
2	9100の審査登録の条件について、顧客要求もあり、航空宇宙製品に限定して9100の登録を申請しようとしたが、審査登録機関より、受注量が少なく（2年に1回程度）、現状ではシステムの運用実績の確認ができないので、実績が確認できるまで審査は無理であると言われたが、やはり無理なのか？	審査には、システムの運用が規格要求どおりに実施されているかを確認するため、運用実績を示す証拠が必要となるので、相談された審査登録機関の見解は妥当と思われます。一方、9100は航空宇宙関連製品でなければ認証を取得できないというような制限はないため、組織の判断により、航空宇宙関連製品にかかわらず、その組織の品質マネジメントシステムを9100に適合させるのであれば、航空宇宙製品の受注を待たなくても、実績証拠を示すことができます。（実際に、そのような組織も存在しています。）

## 1-2. 規格検討WG

番号	内容	回答
1	AS9120「Quality Systems-Requirements for Stockist Distributors」 AS9133「Qualification Procedure for Aerospace Standard Parts」 AS9110「Quality Maintenance Systems-Aerospace-Requirements for Maintenance Organizations」 発行方針と検討状況について	AS9110はJISQ9100と比較差異検討を行い発行するか否かの検討を行っています。その他の規格については原則として国内にそのニーズがあるか、またはIAQGが各セクターで展開必要とされた規格についてJAQG幹事会承認の基に発行します。
2	JAQGとIAQGおよびそれら規格の関係	世界の主要な航空機産業で組織されたIAQGで必要とされる要求事項について議論と調整された規格をもとに各セクターがそれぞれ規格を発行します。国内ではJAQGで展開が必要と判断をしたものをSJAC規格として発行します。
3	なぜJISQ9100となったのか	航空宇宙産業において業界特有の要求事項を国際的に統一し、これを基に各セクターの審査登録制度に合わせて品質規格がそれぞれ発行されています。これらの規格は、国際化した航空宇宙産業において、広く利用されることが予想され、日本国内においても普及を図るために日本航空宇宙工業会規格であるSJAC9100を日本工業規格として制定しJISQ9100を発行しました。
4	JISQ9100の著作権の放棄	経緯につき記録が残っていませんが、JIS規格として発行される時担当者間で調整され現在に至っていると思われます。

### 1-3. 特殊工程WG

番号	内容	回答
1	Nadcapの審査費用は？	初回登録350\$、審査員は35万円／人日程度（旅費、宿泊費含む）です。E-Auditt net に掲載されています。
2	別工程を行っている少し離れた工場があるが、サテライトオーディット適用になるのか？	同じ敷地内でなければサテライトオーディット適用になります。適用の条件は、距離40Km以内、同じクオリティープログラム、クオリティーマネージャであることなどがあります。
3	オーディットクライテリアの日本語訳の揭示はいつごろか？	後1ヶ月程度かかる見込みです。PRIとの間で取り交わすMOUの調整に手間取っていますが、ほぼ固まりつつあります。
4	Nadcap認証は取得したものの、プライムのオーディットが減らない。	防衛庁等、Nadcapシステムを採用していない最終顧客がいるため、現状、プライムメーカーによるオーディットは完全にはなくなる状況にあります。
5	英語での受審は、日本企業にとって大きなハンディキャップである。通訳の準備、日本語での受審等考えてほしい。	各国語での受審は、欧州からも要望が出ていますが、対応方針は現状決まっていません。機会を捕らえ要望していきます。

### 1-4. ウェブ検討WG

番号	内容	回答
1	会員会社から有料広告を募集したらどうか。例えば、会社ロゴを表示してクリックしたらその会社のウェブにジャンプ。	会員サービス向上活動の一環として検討します。